

「利口じゃないけど考えてみた」

作 / 妹尾 青洸

私の名前は「」。人呼んで「」。

誰かと誰かが結ばれて度どこぞの誰かが出来上がり、それまた出来上がった誰かと誰かが結ばれて、そんなことをずーっと繰り返して今、ここに立っている私がいるわけ。もちろん誰だつてそう、同じ。考えてみれば不思議なもので、その誰かと誰かをずーっとたどっていけば元の誰かと誰かが居るわけで、じゃ、その人達は誰なの？と想いを馳せれば、ある人は「アダムさんとイヴさんという男女」と答えたり、はたまた「イザナギノミコトさんとイザナミノミコトさんという男女」という人も出てきたり。じゃあ、その人はどこの誰が創ったの？となれば、それはもう私の考えを遙かに超えたことになり、ブツダダイエスダアラーだと、神秘の世界に突入するわけで。ありえねー、わからねー。

これはもう人間が脳味噌で考える以上絶対に答えが出てくるはずもなく。そういやそんな難しいことまだまだあったな、と考えてみりゃ、そうそう、宇宙って何だ？になるわけで。何でも一説によると宇宙の果てっていうのはどんどん拡がっているそうで、だったらお前行つて見てきたのかよ、みたいな素朴な疑問もわいてくる。メルヘンだねー、ロマンだねー。毎日の飯を喰うこともままならない私なんかそんなこと考えたって腹はふくらまない、一円にもなりゃしない。でもね、考えちゃうんだよね、それが人間でしょ。

その昔、「パスカル」ってー偉い人？が「人間は考える葦である」なんてこと言ったらしいけど、言い得て妙だね。考えなくなったら人間じゃないもの。ただの二足歩行のお猿さんだもの。その辺が畜生とは違つところだつて死んだバアちゃんが言つてた気がするよ。

でもさ、不思議に思っていることがあつて、神様っていう偉いお方が偉いお考えで創りなされた人間が今、普通に殺し合つてるよね。別にさ、死にたい人は死んでもイイと思うよ。あ、私はまだ死にたくないけど。でもさ、会つたこともない人に初めて顔会わせて、挨拶もしないでいきなり「敵」だからって、刺せの、撃ての言われても困るんだよね。

「こうこう、こういう訳だからあなた様がご存命であられるとこちらの都合が非常にヨクシクないので誠に持って申し訳ありませんがここはひとつお亡くなりになっていただけま

せんか？」と。言わないもんない、私の地元じゃ。

でも、その人間達にもちゃんとして正しいことを教えてくれる神様がいるんだよね？それでも殺し合いをしているっていうのはやっぱりあれかね？神様にも派閥とか気が合わないとか、出身が違うとか、いろいろあるのかな？さっぱりわからないけど何かおかしくない？私みたいな出来の悪いのも、政治家さんみたいに出来の良いのも、二本づつ手足があつて、おまんま喰つてクソもしてって、所詮人間みな同じじゃねーか？って考えたらさ、やっぱり楽しいから笑つて悲しくて泣いて辛くて悩んで・・・で、「あっ、神様だ！」ってすがつてみると、誰からみても同じ神様がいるはずで。

そんな私らが殺し合つていうのもねえ。どちらも正しくて、どちらにも愛する者や守るモノがあるわけで。結局、「神様の神様」って人？がいてくれりゃいいのかな？と。でもそれは地球上の話だから、月や火星や木星やって広げると「神様の神様の、もう一つ上の神様」がないと今度は宇宙戦争になってしまうのか！と心配してしまいます。ガンダム？

もう、ホントココまで来ると本格的にさっぱり分からなくなつてしまいます。

まあ、そんな何も分かっていない私みたいなちっぽけな人間ですが、折角毎日考えているんで一言だけ言わせてください。

バカの寄せ集めみたいなモンが集まっている小さな地球の上で、人が人を殺めてどうする？と。それがね、殺める相手が例え自分であってもやっちゃならねえ事だよ、と。折角神様ってお方から「考える」力をいただいているんですから。私はそのくらいの屁理屈を「正義」と名付けて寿命を全うしたいものだ、と、またまた考えています。

そんな「」の今日この頃。

はあ、何だかねえ・・・それじゃ。